



有形文化財（書跡・典籍）

48. 紙本墨書正法眼藏 20冊

■指定年月日 平成5年3月18日(1993) ■所有者 千光寺

■所在地 正院町小路15-11

正法眼藏は曹洞宗の道元が撰述したもので、禅の精神を明らかにし、禅僧の守るべき日常の作法を説いた宗門で最も重きをなす書である。

千光寺所蔵のものは、全89巻を20冊本仕立とし、帙入りで木製の箱に納められている。

全冊とも袋綴、料紙は楮紙、縦27cm、横20cm、本文は片仮名まじり文で、漢文体の部分に返り点、朱句点を付している。

この正法眼藏第1巻には、「元禄二_〇春日大乘白_〇山謹撰」と記した序と、各冊末尾に慈秀の正法眼藏書写に対する_〇山道白の讃偈二首が記されている。本書は千光寺中興の人三世慈秀が元禄2年(1689)に書写したもので、古写本とはいえないが、

保存の状態は極めて良く、しかも慈秀の師である金沢大乘寺の名僧_〇山道白の序と讃が付せられているもので、貴重な典籍といえる。